



Title	「命をつなぐ食」：世界の食糧事情ってどんななん？
Author(s)	関，淳一；坂根，和；鈴木，野々香
Citation	目で見えるWHO. 2017, 62, p. 4-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86643
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「命をつなぐ食」

～世界の食糧事情ってどんななん？～

日本国際保健医療学会・学生部会(jaih-s)とは「国際保健医療に関わる人材育成」に取り組んでいる学生団体です。全国の国際保健医療に関心を持つ様々な分野の学生に対して、幅広い情報や機会の提供を行い、将来、世界で活躍する人材を育成することで日本及び国際社会への貢献を目指す活動は、国内外の健康につながる人材の育成を事業目的の一つに掲げる公益社団法人日本 WHO 協会の考えと一致するものです。

この趣旨を踏まえて、第6回目となる共催企画フォーラムを2016年10月1日に大阪市立大学文化交流センターで一般社団法人大阪薬業クラブの助成も頂き「命をつなぐ食」～世界の食糧事情ってどんななん？～をテーマとして開催いたしました。

●開会の挨拶

(公社)日本WHO協会理事長 関 淳一

日本国際保健医療学会・学生部会(jaih-s)と私共の(公社)日本WHO協会との共催によるフォーラムも今年で6回目迎えることになりました。今年もこれ迄の様に、テーマの選定、講師の先生方へのお願いなども含めて企画全般についてはjaih-sの皆様にすべてお任せし、私共は会場の選定や資金面の支援などの、いわば裏方に徹し今日を迎えました。

毎年、jaih-sの方々の企画・運営の能力は素晴らしく、この共催企画を今日まで発展的に継続させる上での大きな力であったと思います。

ことしのたいとは「いのちをつなぐ食～世界の食糧事情ってどんななん？～」です。

今回は例年と異なり、まずワークショップでバングラディシュとウガンダ共和国を例に取り上げて食糧・栄養問題についての考え方の基本認識を共有し、その後、忍足謙朗先生と石川みどり先生のご講演をお聞きします。

今回は、大変お忙しい中、jaih-sの人達の強い希望にお応え頂き、講師をお引き受け頂きましたお二人の先生方に主催者を代表しまして心から厚くお礼申し上げます。

また、ワークショップの内容や進め方等につきましては、NGOハンガーフリーワールドの青少年組織であるYouth Ending Hungerの方々に早くからお世話になり、本日も直接ご指導頂くことになっております。本日も頂きましてお二人に改めて厚くお礼申し上げます。

忍足謙朗先生には30年以上にわたる国連、特に世界食糧計画(WFP)での、直接現場での御経験に基づく貴重なお話を頂けることと思います。

また石川みどり先生には近年のグローバル化とも関連する、特に途上国での食習慣の変化と健康問題

などについて、栄養学の専門家としての国際経験を基にしたお話をお聞きできることと思います。

今回も「いのちをつなぐ食～世界の食糧事情ってどんななん？～」というタイトルをjaih-sの担当の方から聞いた時、私はなるほどと思いました。というのは、たしかに食糧の問題は命にかかわる問題です。保健医学の視点から考えるとき、人類にとって最も重要な問題といえると思います。その問題をグローバルな視野で考える時世界の各々の地域の食糧問題の現状真の現実の状況についての正しい知識が強く求められると思います。これは教科書や大学の講義だけからでは、なかなか得にくいものだと思います。

ご出席の皆様が、今日は日常の学校での授業等では得られない何かを得られれば、主催者として何よりの喜びであります。最後まで頑張ってください。

●開会の挨拶

jaih-s11 期代表 坂根和
(富山大学医学部医学科)



第6回目となる(公社)日本WHO協会×jaih-s共催企画「いのちをつなぐ食～世界の食糧事情ってどんななん？～」にご参加くださり、誠にありがとうございます。

jaih-sは「国際保健医療に関わる人材育成」を目標に2005年に設立された学生団体です。jaih-sでは国際保健の学習機会と学生を繋ぐ架け橋であり続け、更に多くの学生が将来国際保健の分野で活躍することを目指し、全国各地での勉強会や合宿などを開催してまいりました。その中でもjaih-sでは、(公社)日本WHO協会の協力を得り、2011年より毎年関西区域にて大規模国際保健勉強会を開催させていただいております。

今回は、「食糧と健康」の切り口から国際保健を考えることを学習目標に掲げ、食と健康の分野でご活躍されている、忍足謙朗先生と石川みどり先生を講師にお迎えして学んでまいります。さらに、企画の冒頭で行いますワークショップでは、飢餓・貧困の問題解決を目的として活動しておられる NGO ハンガー・フリー・ワールド（HFW）の青少年組織である Youth Ending Hunger に作成時からご協力いただきました。医療にとどまらない本企画は、ご自身の専門分野を飛び出し、新たな視野から国際保健とご自身の専門分野を見つめ直す絶好の機会となることと存じます。また、先生方に沢山質問し、異なる背景を持った学生同士で大いに語り合うことによって、国際保健を深く学び、将来共に働く仲間を得る機会としていただけたら幸いです。

最後となりましたが、(公社)日本 WHO 協会×jaih-s 共催企画「いのちをつなぐ食～世界の食糧事情ってどんななん？～」の開催にご尽力くださいました関係者各位に、心より感謝を申し上げます。本日より、皆さまにとって実り多き日となりますように。

●本企画の立案にあたり

jaih-s11 期勉強会班

班長 鈴木野々香

(琉球大学医学部医学科)



将来国際保健分野に関わる若手人材の育成という jaih-s の理念が、(公社)日本 WHO協会の理念と合

致したことにより過去5回にわたり開催され、本年度第 6 回目を迎えることが出来ました。

近年、世界の上位20%の富裕層が世界の富の94.5%を有しており*1、富の格差は広がりつつあります。「食」の格差も同様のことが言えるでしょう。世界では9人に1人が十分な食べ物を得ることができず、慢性的な飢餓状態にあります*2。これは、食糧不足に依るものではなく、食糧の配分の不公平や食料価格の高騰によるものと言われています。世界中の人々が食べていくだけの食糧はあるにもかかわらず、その殆どが先進国で消費されており、飢餓に苦しむ国が諸外国に食糧を輸出する矛盾さえも起きています。その一方で、途上国では近年肥満、高血圧などの生活習慣病も問題となっています。伝統的な食生活に依る塩分摂取過多や、安価なファストフード食の偏重による栄養不足や肥満など、もはや途上国の食糧問題は飢餓と栄養失調のみにとどまりません。

本企画は、私たちが生きていくために必要な「食」にまつわる健康問題に焦点をあて、途上国における食糧問題が飢餓だけではないということを知る機会を設けたく、立案に至りました。将来を担う参加者の皆様が、企画を通して食糧問題をより身近なものとして捉え、自分たちに出来ることは何か考え、行動を起こすきっかけとなることを願っています。

*1) (オックスファム：2014年度グローバル・ウェルルス・レポート)

*2) SOFI2015